

---

# 研究プロジェクト

---

## 1. **ダイバーシティ教育研究**

### ■ 私たちが目指すもの：共生社会に向けた教育プログラム研究

社会の多様性が高まる中で、様々な差異を持った人々と共生するための知と技術を使いこなし、また生み出していくことのできる人材が求められています。本センターでは、学内の学部横断型教育プログラムである「バリアフリー教育プログラム」、各種シンポジウム、共同研究等を通じたネットワークにおいて形成された、障害学・ジェンダー研究・クィア理論・エスニシティ研究・開発経済学等を横断する知見を基盤として、差異に対する拒絶的な反応を喚起することなく多様性を包摂する社会の実現に資する教育プログラムの開発を進めています。eラーニング、ワークショップ、授業実践、企業研修等、具体的な各種プログラムを開発するとともに、それらを広く社会に普及させ、持続的に展開していくためのスキーム構築についても、国や自治体、企業、NPO等との連携を視野に入れて積極的に取り組んでいます。

### ■ プロジェクト

#### A: ワークショップ型教育プログラム

- ・多様性について学ぶための中等教育用教育プログラム
- ・一般向け「心のバリアフリー」教育プログラム
- ・多様性について考えるための企業・行政向け研修プログラム

#### B: eラーニング

- ・障害者差別解消法
- ・「心のバリアフリー」

#### C: 自治体・企業向け講師養成プログラムの提供

- ・ワークショップ型教育プログラム実施担当者に必要な知識・スキルの提供

## D: ダイバーシティに関する理論研究

- ・ダイバーシティ基礎講座
- ・ダイバーシティを構成する差異の間にある構造的不均衡とそれらを生み出す社会的要因の分析に関する研究
- ・インクルーシブ社会を実現するためのダイバーシティ教育の理論と方法論に関する研究

### ■ 定例研究会

- ・第1回 多様な性の子どもたちと学校  
講師 遠藤まめた（にじーず代表）
- ・第2回 貧困世帯の子どもの学校生活  
講師 林明子（大妻女子大学家政学部児童学科常勤特任講師）
- ・第3回 差異化と連帯のディスコース——発達障害とヒューマンライブラリーの研究から  
講師 照山絢子（筑波大学図書館情報メディア系助教）

## 2. **インクルーシブ教育研究**

### ■ 私たちが目指すもの：インクルーシブな学校づくり研究

国連の持続可能な開発目標（SDGs）にも掲げられた「包摂的且つ公平で質の高い教育」をすべての人々に対して達成するために、日本の学校教育は岐路に立たされているといえます。国連の「障害者の権利に関する条約」の批准、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」や「子どもの貧困対策に関する法律」の施行、さらには文部科学省による性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について」の周知などを受け、近年、これまで排除・周辺化されてきた社会的マイノリティも、当たり前に関に学べる学校づくりが求められてきています。一方学校現場では、教員の働き方の問題に加えて、新たな社会的要請への対応を迫られる中で、学校現場だけがもしくは研究者のみが、今後の教育の課題と向き合っていくことは限界にきています。私たちは学校現場との連携・協力の下に研究を進めることによって、学校現場と研究的知見の双方を相乗的に発展させながら、インクルーシブな学校づくりの

研究に取り組んでいきます。

## ■プロジェクト

### A: 基礎調査

- ・日本の教育の現状と社会的マイノリティの位置、国際的動向等、インクルーシブな学校づくりの基礎となる調査
- ・特別支援教育を中心とする教員養成課程の現状調査
- ・教育における「インクルージョン」をめぐる議論のレビュー

### B: Good Practice 事例調査

- ・大阪府等において既に行われてきたインクルーシブな学校づくりの実践の調査と情報発信

### C: パイロット研究

- ・地域的課題の多様性を踏まえた全国各地のインクルーシブな学校づくりに関する視察調査
- ・教員との連携による現場のインクルーシブな学校づくりの探求

## ■定例研究会

- ・第1回 カナダオンタリオ州ハミルトンにおけるフル・インクルーシブ教育の実践について

講師 野口友康（東京大学大学院総合文化研究科／NPO 法人予防接種被害者をささえる会代表理事）

- ・第2回 社会モデルによる学校教育の改革—スウェーデンの中学校における社会的マイノリティの差異の包摂の試み

講師 二羽泰子（東京大学大学院教育学研究科 バリアフリー教育開発研究センター 特任助教）

- ・第3回 障害児の学ぶ権利のゆくえ：「どの子ども地域の学校へ」は進んだか？—養護学校義務化から40年を経て

講師 長谷川律子（障害児を普通学校へ・全国連絡会代表）

- ・第4回（特別回） アメリカのフル・インクルーシブ教育における教師

の専門性

講師 Ayla Gavins (Prinsipal of Mission Hill School, Boston)

・第5回 イタリアの障害児インクルーシブ教育制度の現状と成立背景

講師 一木玲子 (大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター客員研究員)

### 3. バリアフリー研究

■ 私たちが目指すもの：バリアのメカニズム探究

本センターでは、障害者等のマイノリティが主流社会にアクセスできるようにするための物理的手段に重点を置いてきた従来のバリアフリー研究・実践に加え、既存の社会を成り立たせている価値や規範の問い直しを含むバリアのメカニズムの探究に力を入れています。そうした観点から、(1)バリア（フリー）というテーマを、障害者や高齢者の社会生活を困難にしている環境要因の問題に限定せず、様々な社会的位置に置かれた多様なマイノリティが経験する問題に通底する普遍的なテーマとして位置づけるとともに、(2)「内」と「外」、「個人」と「社会」とを二元論的に区別した上で、後者のうちに問題を見出すオーソドックスなバリアフリーの理解を相対化し、身体の「内」にある「外的」な要素や、「個人」の中にある「社会的」な側面にも焦点を当てた、社会・文化・心理的なバリア現象の解明を進めています。

■ 研究課題

【高等教育とバリアフリー】

- ・学内のリソースを活用した学際的なカリキュラム開発
- ・合理的配慮の理論と実践に関する研究

【テクノロジー利用の可能性と課題】

- ・ICTを活用した支援実践研究
- ・能力増強（エンハンスメント）技術をめぐる社会的課題の研究

【パラリンピックムーブメントと共生社会】

- ・パラスポーツの社会的価値に関する研究

**【メンタルヘルス支援】**

- ・ 認知行動療法に基づくサービス開発
- ・ うつ病の予防に関わる臨床的研究